

2007年度 関西学生サッカーリーグ 記者会見

9月3日に「2007年度 関西学生サッカーリーグ」の記者会見が行われました。

まずは記者の方々に向け、今リーグの見所や、2008年度からの改革の内容の説明がされました。

* 関連資料は「学生リーグ概要」の項を参照



続く懇親会では、1部リーグの監督とキャプテン、プログラム表紙掲載選手などが集まりました。

(監督やキャプテンなどの懇親会での秋季リーグにかかる意気込みコメントを記載しています。)

<各チーム監督コメント>

びわこ大:松田 保 監督

せっかく春に優勝できたのに、総理大臣杯出場はかなわなかった。秋は上位に定着できるよう、質を良くして内容が伴うようにして挑戦していきたい。夏休み期間は、数多い部員間で活発に争いあってそれなりの戦いを出来るチームを作ってきた。天皇杯予選での敗退はチームがまだ過渡期である証拠。そういう部分はあるが、質を伴って上位に食い込みたい。

* 会見には大西コーチが出席しましたが、松田監督のコメントを記載しています。

坂本 康博:総監督

春季リーグでは失点が少なかったが、点が取れていないのが課題。DF陣がよく頑張っていて、FW陣が点を取らなかった。走るトレーニングや筋トレはしていないが、継続中のトレーニングがある。結果が残せたのはそれが浸透してきたからかなとも思う。それとつめ、上位を狙っていききたい。

松本 直也:監督

春季は最初いい感じで入ったが、ケガ人などでメンバーが揃わないようになると思うようなサッカーが出来ない状況になった。秋季は現在があまりよくないので、逆に秋は徐々にチーム力が上がっていきければ思っている。つなぎのミスはあるが、一つのミスを全員でカバーできるよう、気持ちの方をしっかりと開幕に向けて持って行きたい。

古井 裕之:監督

春季はしっかり守ってカウンターというサッカーをした結果が2敗という結果。実力的にはそんなに優れた選手がいないので、全員がチームのコンセプトを守ってやった結果。初戦の桃山大は過去何年か勝てていく苦手意識がある相手となるが、確実にチャンスをもつ形を目指し、戦いに望みたい。

田中 幸雄:監督

春季の5位と言う結果は順位通りの結果。そこからでた課題は切り替えを早くすることとメンタル面であったが、9月2日に行われた天皇杯予選では、前後半でがらっと変わり、メンタル面の課題が浮き彫りになった。そこを改善して秋季リーグに望みたい。

関学大:加茂 周 監督

春の6位はまずまずの結果で、順位も予想通り。まぐれの試合も多かったように思うが、点が取れないのが課題。秋季は春季同様、とにかくひたすらみんなでやるしかないと思っている。

川端 秀和:監督

春季は優勝候補にあげられながら、やってみれば負けが多く、点が取れず去年みたいに粘れず失点を少なく出来なかった。原因は自信を持ってサッカーをできていないことだと思う。7位で終わった春季リーグも上位チームには接戦であったし、メンタルの部分を大事にしていきたい。

藤原 義三:監督

春季リーグを戦ってみて少し苦しいかなと言うのが実感。大院大は走れないチーム。気合の入った山本新コーチを迎え、夏も走りこみをしてきた。入替戦でも首をかしげなくなる結果ではあったが、その現状を受け止め、なんとか上位に食らいついて入替戦の無い順位で追われればと思っている。

須佐 徹太郎:監督

春季リーグの結果は順位通り。去年の秋も、今春も5引き分け。去年の秋は攻め切れなかったが、今年の春は粘りきれなかったのが原因だと感じている。結果、春の入替戦はかなり冷や冷やした展開となった。キャッチフレーズの通り、再生を目指す。

望月 慎之:監督

2部と1部の違いはスピードや身体能力だと思うが、そういうチーム相手にどれだけ自分達のサッカーが出来るかチャレンジしていきたい。前からしっかり守備もし、FWと後ろの選手で連携して。チームコンセプトである一心不乱に戦いたい。

びわこ大



榊 親平 キャプテン (上写真左)

夏は走りこみもし、結構いい状態だと思うが、天皇杯予選で自分たちの課題が浮き彫りになったので開幕までに修正したい。春は優勝したが秋はどうなるかわからないので、チャレンジャーというのをまだまだ忘れずにゼロから戦っていききたい。

船津 徹也 選手 (右上写真、一番左)

僕らはチャンピオンとしてではなく、チャレンジャーとしてやるだけ。相手に合わせず自分らのサッカーをしようというのが一番。

同大



亀井 聖司 キャプテン (上写真、中央右)

初戦の相手はとても手ごわい相手だと思うが、自分達の出来るサッカーをしていい試合をしたい。春の対戦相手とレベルも上がっている、それに適応する力も夏に蓄えてきていると思っている。

岡 慎一郎 選手 (上写真右)

毎年、秋リーグでは降格などで上位争いに食い込めていないので上位争いに食い込みたい。初戦が大事だと思うので、初戦は勝ちたい。

近畿大



馬場 賢治 キャプテン

秋季は1試合目と2試合目の間が開くので、初戦、勝って終わるか負けて終わるかで全然違うので、大事に入りたい。相手の関学大には春はいいやな負け方をしたので、粘り強さが苦手ではあるが、粘り強く頑張って勝利を目指したい。

関学大



木村 哲也 キャプテン (写真中央)

秋季リーグは長いリーグ戦になるので、初戦に勝つか負けるかで違うと思う。初戦を重視して大会に臨みたい。

北野 雄志 選手 (写真右)

跳びぬけた選手がいないので皆で一致団結するという形でやっている。前からプレスしていった相手が嫌がることをやっていかないと勝てないチームだと思っているのでその辺からしっかりやっていきたい。

桃山大



尾崎 雄二 キャプテン (写真左)

現状のチーム状況はそんなによく無いが、4回の自分達にとっては最後の大会。チーム状況が悪いときにほど4回生がしっかりしないといけないと考えているので、そこを支え、チームに貢献していい結果が出ればと思っている。チーム全体で一つのサッカーを出来るように話し合いも続けている。

大院大



稲田 康志 キャプテン (写真右)

自分達もそんなにいい状態とはいえないし、春季は桃山大にはコテンパンにされた。頑張らないと歯がたたない相手。チームは同じ方向を向くということをテーマにしているので、その気持ちを持ちつつ、まずは初戦を迎えたい。

京産大



塚原 真也 キャプテン (写真左)

初戦の関西大は春季は引き分けたが、強い相手だと思うのでしっかり頑張っていきたい。相手にかんしてそこまで分析はできていないが自分達の形が出せればと思っている。実力的には下の方にいると思うのでしっかり守って、僅差でもいいので勝てればと思う。

日下 亮 選手 (写真中央左)

守ってカウンターという形で攻撃したい。関大はすごいつないでくるので、僕らは我慢してうばって攻撃を仕掛ける。

関西大



板倉 史門 副将 (写真左)

相手の京産大は各上だが、自分らのサッカーを貫いて勝ちたい。

吉村 修平 選手 (写真右)

春は試合終了間際でおいつかれて同点になっているので、粘り強い戦いをして絶対に勝ちたい。

大体大



西谷 良介 キャプテン

春季リーグは1点の重みをチームで感じたリーグだった。そういうところを修正し、しっかり秋のリーグに望みたい。まだまだ課題がいっぱいあるが、チーム内で話し合い、初戦の入りを大切にしていきたい。

阪南大



楠本 晋矢 キャプテン (写真右)

相手の大体大は完全に格上だと思っているので、チャレンジャー精神で望む。春季、どこよりも苦労して1部に残ったと思っているので、その気持ちを忘れずに頑張ればいけるのではないかと考えている。



関西からのユニバー代表3選手

左から

吉村 修平 選手(関西大・4年)

古部 健太 選手(立命大・4年)

馬場 賢治 選手(近畿大・4年)

吉村 修平 選手

今大会は6試合中5試合を先発で出ていい経験ができて、世界の同年代の選手との差も感じた。出来た部分もあるし、出来なかった部分もある、イタリア戦に出れなかったのは実力だと思っている。僕のウリは献身的な守備だけでなく、スピードを活かしてサイドを駆け上がることなので、それがあまり出来なかったのが課題。秋リーグはこの大会で経験したことを活かして頑張りたい。

古部 健太 選手

3試合スタメンで出て、シュートチャンスは結構あったけど、全部はずしてノーゴールで帰ってきました。FWで出たり、サイドハーフで出たりでシュートチャンスは結構あったけど点が取れず、ユニバーは苦しい思い出として残っている。イタリア戦のメンバーは関東A選抜がほとんどで、関西の3人だけ残っていて悔しかった。僕らはインカレに出れないけど、他の大学は頑張ってもらってインカレで関西の力を見せ付けてほしい。立命は絶対に今季で1部に上がって、来年は最強のチャレンジャーとして皆様の前に現れると思うのでよろしくお願いします。

馬場 賢治 選手

今回は追加招集でラッキーな形でユニバーに行けるようになって、自分なりに準備はしていたので戸惑い無く大会に望めた。2得点あげることが出来て調子もそこまで悪くなく、いい大会になったんですが、大事なところで使ってもらえなかったのは実力不足というところがあったなと思う。切れる時間があったり、運動量の部分でユニバーを通して感じる部分があった。そういった部分は今後のサッカー人生に大切になってくるので、修正していこうと思っている。ユニバーでスカウティングした時に注目されるような選手は、ゴール前で貪欲に仕掛けていく選手や、どんどん勝負していく選手で、そういった選手は世界でも目立つ選手だと思うので、自分も伸ばしていきたい。ユニバーでいろんなポジションをして、いろんな観点でサッカーを見れることもできて、いい経験ができた。

